



四月二十九日から始まる「高知家・まるごと東部博」のプレイイベントの一つとして「第一〇回土佐の町家ひなまつり」が、二月二十八日から三月三日まで、高知県東部の六市町村で開かれました。

「高知家・まるごと東部博」(OB)の作品が展示されました。

四月二十九日から始まる「高知家・まるごと東部博」のプレイイベントの一つとして「第一〇回土佐の町家ひなまつり」が、二月二十八日から三月三日まで、高知県東部の六市町村で開かれました。

慎太郎生家には今年作製したひな人形二三体を含む三五体を、また慎太郎館には、「慎太郎と四季」一二点・「木端で作る土佐の四季」一二点が展示されました。

このイベント会場の一つである高知県北川村の中岡慎太郎生家と中岡慎太郎館に、日頃より、当局が実施している森林環境教育用の木工作品の見本及び各パーツ等の作製にボランティアとして取組まれている「金

期間中慎太郎生家には、一二〇余名の来客があり、遠く茨城県から訪れた観光客は、「木で作ったひな人形を初めて見て、感激しました」と長い時間鑑賞されました。

ていました。また、最終日には南国市の女性が「やつと間に合った」と、片付けようとしていた時に来て鑑賞していました。ボランティアで片付けに来ていた正岡さん本人から、『小枝などで作る「ひな人形」冊子(四国森林管理局作製)やひな人形カードをプレゼントするなど四国森林管理局のPRにも一役買っていました。

今回のプレイイベントでは、北川村の村民方々は、勿論のこと、県内外から多くの観光客が訪れ「木で作製したひな人形」を鑑賞していただきより一層、木の良さをPRすることが出来ました。

今回のプレイイベントでは、北川村の村民方々は、勿論のこと、県内外から多くの観光客が訪れ「木で作製したひな人形」を鑑賞していただきより一層、木の良さをPRすることが出来ました。



中岡慎太郎生家にて展示



中岡慎太郎館にて展示



展示されたひな人形等



# 各地のたより



物にも指定されており、その

## 「屋島をきれいに」 屋島クリーン大作戦

〈香川森林管理事務所〉



三月八日、歴史と自然豊かな環境をもつ屋島を守る清掃活動が行われ、当所の職員も参加しました。

香川県高松市の北東部にある屋島は、日本最初の国立公園の一つである瀬戸内海国立公園に含まれ、また、半島内には源平の古戦場跡や古代の山城の遺構があり、メサ地形（溶岩台地）の典型でもあるところから、国の史跡名勝天然記念

ど関係機関連携のもと、更には各種ボランティア団体や地元企業などにも広く参加の呼びかけを行い、毎年「屋島クリーン大作戦（毎年三月の第一日曜日に大規模な清掃活動）」を実施しています。

高松市内の国有林は、市街地に近く不法投棄も多いことから、地域住民の協力や高松市・警察と連携した撤去活動・パトロール等により啓発活動にも取り組んでいます。一部は、雨天で順延となり、三月八日の実施となりましたが、香川森林管理事務所

住民・行政・土地所有者な

第一四回目となった今年

は、雨天で順延となり、三月八日の実施となりましたが、香川森林管理事務所

実行委員会のメンバーとして、「長崎ノ鼻周辺」や「県道・市道の沿線」（大部分が屋島国有林）での清掃活動に職員が参加し、茂みに捨てられた生活ゴミや電化製品・家具等を回収しました。

当日は、総勢約一、四〇〇人が参加し、屋島周辺七箇所に分かれて清掃が行われ、一時間半ほどの作業で約六トンのごみを回収しました。

高松市内の国有林は、市街地に近く不法投棄も多いことから、地域住民の協力や高松市・警察と連携した撤去活動・パトロール等により啓発活動にも取り組んでいます。一部は、雨天で順延となり、三月八日の実施となりましたが、香川森林管理事務所

実行委員会のメンバーとして、「長崎ノ鼻周辺」や「県道・市道の沿線」（大部分が屋島国有林）での清掃活動に職員が参加し、茂みに捨てられた生活ゴミや電化製品・家具等を回収しました。

## 折合大ヒノキ

〈四万十森林管理署〉



かつて、幹回り日本一「折合の大ヒノキ」（以下大ヒノキ）としてその名を知られていた高知県四万十町の大ヒノキ（樹高三〇m、胸高周囲八・三m、根元周囲一三・八m、推定樹齢八五〇年）。

今回、土佐植物研究会の現地調査（下見）に同行し土佐を代表する名木に会うことができました。

大ヒノキへは、四万十町中心部より折合林道の登山口まで約一時間車で移動し、それからヒノキ人工林



ごみ回収の様子

と照葉樹林の登山道を徒歩で上ること約一時間で到着します。

二〇年ほど前より、落雷や台風により傷みが激しく、その行く末が心配されていましたが、昨年までは回りを圧倒する威風堂々と

した老武士のような風格を湛えており、その存在感はまさしく『日本一』の称号に相応しいものでした。

ところが今回の調査で

は、昨年夏の台風の猛烈な

風によるものでしょうか、

大ヒノキのシンボルとしてそびえていた白骨の主幹が無残にも倒壊し、大変残念な痛ましい姿となつて立っていません。

昭和初期に国有林野事業がこの地において伐採事業を始めたときにはすでにこの大木の根元にあつたという、受口として伐られた斧の跡が今でもくつきりと

残っています。

何百年もの間、この山の中

で一步も動くことなく重なる台風や落雷、周辺の伐採等の環境変化などにも耐えてきましたが、いよいよこの大ヒノキも終焉の間際となつていたのでしよう

か。樹脂を含んだその大きな根株からするとまだしばらくはその堂々とした存在感を見せてくれることと思われま



折合大ヒノキ  
(平成26年の台風の被害後と思われる)



折合大ヒノキ  
(平成25年6月の様子)

## 平成 26 年度四国森林・林業研究発表会

### 日本森林林業振興会会長賞

おめでとうございます。



愛媛県中予地方局  
産業経済部森林林業課  
係長 亀岡泰次氏  
係長 俊成秀樹氏

不思議なことこの大ヒノキのあたりには、まるで大ヒノキをご神木として守護するかのようサカキが周囲を囲んで生えています。高幡ヒノキのシンボリックに伝えていきたいと考えています。

※前月号で授賞の写真が掲載に間に合いませんでした申し訳ございません。